

令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「日本史A現代からの歴史」 (東京書籍)						
副教材等	新詳日本史 (浜島書店) 日本史用語集 (山川出版) 日本史重要語句 CheckList (啓隆社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

たくさん出てくる用語の中でどこが重要なのか、どれとどれが関連のある語句なのか教科書だけでは解りません。歴史は暗記物という考えから、授業を聞かずに丸暗記しようとする人がいます。そしてそんな人ほど歴史を苦手としているようです。その事項が歴史の流れの中でどんな意味を持ち、他の事項とどのように関連しているかを理解することが重要なのです。もちろん、暗記することも必要ですが、バラバラに暗記するのではなく、歴史の流れを理解した上で他と関連づけて系統的にセットで暗記するべきです。それを押さえるのが授業です。効率よく学習するには、授業を大切にすることです。受験にも対応できるようにプリントを利用して授業を行います。プリントを完成させるだけでなく、興味を持って、積極的に取り組んでください。

2 学習の到達目標

- ① 近現代の日本の歴史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解します。
- ② 近代社会が成立し発展する過程を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、ものごとを実証的な考察によってとらえる歴史的思考力を身に付けます。
- ③ 歴史に対する興味・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身につけます。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	歴史的事象に興味関心を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している	日本史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りまとめることができる。	日本史を中心とする世界の歴史についての基本的な事項を地理的条件とも関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期① (第1中間考査まで)	【序章】 私たちの時代と歴史	1. 私たちと歴史の結びつき 2. 私たちの時代	○		○	○	<p>a: 自分たちが生きている現代の社会を形成してきた過程である歴史への関心を高め、身近な生活文化の背景や、地域のある期間における変化、現代社会の課題を意欲的に調べ、またグローバル化する現代社会への関心を高め、様々な分野でのグローバル化の現状を意欲的に調べ、日本史を学ぶ態度を身に付けようとしている。</p> <p>b: 時代の異なる2枚の地図を比較し、その期間のその地域にどのような変化が生じたのかを歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。</p> <p>c: それぞれの時代の主なできごとを記した年表から、それぞれのできごとの因果関係、時代のおおまかな流れを読み取り、それぞれの時代の全体像について考察する根拠として活用している。</p> <p>d: 新聞記事から読み取ることのできる現代社会の課題の歴史的な経緯について理解し、その知識を身に付けている・現代の世界に生じている、一国では解決できないような様々な課題について理解し、その知識を身に付けている。人権などの価値観のグローバル化について理解し、その知識を身に付けている。グローバル化が進展する一方で高まる各地のナショナリズムについて理解し、その知識を身に付けている。</p>	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査

<p>前期②(第2中間考査まで)</p>	<p>第1章 国際環境の変化と明治維新</p>	<p>1. 19世紀世界の動向と日本 2. 開国と倒幕 3. 明治新政府の諸政策と社会の変化 4. 明治初期の外交と反政府運動 5. まとめ</p>	○	○	○	○	<p>a: 開国前後の国際情勢と国内情勢への関心を高め、開国後の社会の変化や権力闘争の経緯を意欲的に調べ、開国と倒幕との関係、倒幕後に徳川氏が排除された意味についての考察を深めようとしている。明治新政府の諸改革やそれが社会にもたらした変化への関心を高め、近代的な統一国家の体制を整えるための諸改革について意欲的に調べ、それらがもたらした政治や経済、社会の西洋化について、国民の負担を探る視点からも考察を深めようとしている。明治初期の外交政策への関心を高め、政府が欧米に学んで近代化を進めるにあたって、国境を画定していった経緯を意欲的に調べ、欧米諸国に対する外交と東アジア諸国に対する外交との違いを追究しようとしている。</p> <p>b: 新政府の版籍奉還、廃藩置県、四民平等、徴兵令公布、秩禄処分、地租改正、殖産興業などの政策の意味を歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。</p> <p>c: 様々な写真資料や絵画資料から、日本の近代化の状況を示す情報を読み取り、近代化の進展について考察する材料として活用している</p> <p>d: 新政府が版籍奉還、廃藩置県によって、天皇を中心とする統一国家として政治機構を整えていく経緯を理解し、その知識を身に付けている。四民平等、徴兵令の公布、秩禄処分について学び、その知識を身に付けている。地租改正により近代的な土地所有権が確立されたこと、政府が財源を確保し、通貨の統一や交通・通信網の整備、官営工場設立など、殖産興業に努めたことを理解し、その知識を身に付けている。第1章で学んだ近代日本の形成過程を理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査</p>
----------------------	-------------------------	--	---	---	---	---	--	--

<p>前期③(期末考査まで)</p>	<p>第2章 近代国家名成立と国際関係の推移</p>	<p>1. 自由民権運動の展開</p> <p>2. 立憲体制の成立</p> <p>3. 日清戦争と国際関係</p> <p>4. 日露戦争前後の世界と日本</p> <p>5. まとめ</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>a: 自由民権運動への関心を高め、日本の近代化の特徴を追究しようとしている。日清戦争日露戦争前後の国際関係への関心を高め、戦争にいたる経緯や戦争の展開、戦後の日本や東アジア情勢について意欲的に調べ、日本の政治や経済、社会、国民の意識にもたらされた変化を追究しようとしている。</p> <p>b: 自由民権運動・日本の資本主義発達・大日本帝国憲法の制定・条約改正交渉の経緯について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。</p> <p>c: 様々な写真資料や絵画資料・歴史地図・資料・写真データを分析し、日本の近代化の状況を示す情報を読み取り、近代化の進展について考察する材料として活用している。</p> <p>d: ・帝国主義の時代に、日本が朝鮮への影響力を強めようとして朝鮮政府や民衆の反発を受けるとともに、清とも対立した過程を理解し、その知識を身に付けている。日清・日露戦争の経過と戦争が日本と朝鮮の関係に与えた影響について理解し、その知識を身に付けている。藩閥と政党が接近して政党の政治的影響力が強まる一方、軍部大臣現役武官制が定められ、政党の力を制限しようとする動きがあったことを理解し、その知識を身に付けている。変動する東アジア世界における日本の動向を理解し、その知識を身に付けている</p>	<p>授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査</p>
--------------------	----------------------------	--	----------	----------	----------	----------	---	--

<p>後期①(中間審査まで)</p>	<p>第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本</p>	<p>1. 帝国日本と第1次世界大戦</p> <p>2. 政党政治と大衆文化</p> <p>3. 軍国日本への道</p> <p>4. 太平洋戦争と日本</p> <p>5. まとめ</p>	○	○	○	○	<p>a: 第一次世界大戦前後の時代への関心を高め、大戦前後の世界の動向や日本の社会、経済について意欲的に調べ、大日本帝国の実態を追究しようとしている。近代日本の政党政治への関心を高め、その時期の外交政策について意欲的に調べ、大戦後の社会について考察を深めようとしている。1920～30年代の日本への関心を高め、満州事変、日中戦争の原因やそれらが日本や世界に与えた影響について考察を深めようとしている。太平洋戦争への関心を高め、第二次大戦が未曾有の被害をもたらした要因を追究しようとしている。</p> <p>b: ・第一次大戦中に、日本が中国への侵略を進めた経緯、それが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。1920年代の政党政治について、普通選挙法と治安維持法が同時期に成立したことを手がかりに歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している・第二次大戦にいたる経緯や展開について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。</p> <p>c: ・第一次大戦前後の時期の複数の歴史地図を分析し、国際情勢の変化を示す情報を読み取っている。20世紀前半の写真資料や絵画資料を分析し、当時の国際情勢や日本の政治、社会の様子を示す情報を読み取っている。</p> <p>d: 第一次大戦の時期に、日本が中国への侵略を進めた経緯を学び、そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。第二次大戦勃発後、日米開戦までの経緯や太平洋戦争の展開を理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査</p>
--------------------	-----------------------------	---	---	---	---	---	--	--

後期②(期末考査まで)	第4章 現代世界と日本	1. 現代世界の開幕と日本の戦後改革 2. 日本の再建と復興への道 3. 米ソ2極構造の世界と国内の再建 4. 高度経済成長の時代 5. 低成長から経済大国へ 6. 冷戦の終焉と日本 7. まとめ	○	○	○	○	a: 第二次世界大戦末期の状況や戦後の世界への関心を高め、沖縄戦の実態や戦後の国際社会の状況、アメリカによる日本占領政策などについて意欲的に調べ、日本の戦後改革についても国際情勢と関連づけて追究しようとしている。1950年代以降、冷戦終結後の世界日本への関心を高め、その時代の国際情勢や日本の動向について意欲的に調べ、日本や世界が直面している課題の歴史的背景に関する考察を深めようとしている。 b: サンフランシスコ平和条約による日本の独立から55年体制の成立や日米安全保障条約の改定などのできごとについて、東西冷戦と関連づけて歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。高度経済成長の背景や概要、政治や社会に与えた影響について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。 c: 第二次世界大戦後の世界に関する歴史地図・資料・写真データを分析し、戦後の国際秩序やその変容を示す情報を読み取り、日本のおかれた状況を示す根拠として活用している。 d: ・GHQの指令を受けて進められた民主化及び非軍事化の内容と経緯、戦後の日本に与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。 ・日本国憲法制定の経緯と三原則について理解し、新憲法に基づいて、多くの法律の改正や制定が行われ、改革が進められたことを理解し、その知識を身に付けている。東西冷戦が続く中で防衛力が増強され、保守政党が合同して、保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解し、その知識を身に付けている。現代の世界と日本の動向を理解し、その知識を身に付けている。	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査
-------------	----------------	--	---	---	---	---	--	---------------------------------------

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。